

「日本女性会議 2015 倉敷イベント」が開催！

2015年10月9日から11日まで開催される「日本女性会議 2015 倉敷」。1984年（昭和59年）名古屋市での第1回大会から数えて32回目、1997年第14回開催の岡山市に次いで、岡山県では2市目となります。そのイベントが、2014年9月15日と10月11日に倉敷市で行われました。



「ノーベル平和賞受賞者タワックル・カルマンさん講演会」（9月15日）

2011年アラブ人女性として初めて、当時史上最年少でノーベル平和賞を受賞された、タワックル・カルマンさんの講演会が、イベント特別企画として開催されました。

「アラブの春」に呼応し、33年もの間独裁政治を行ってきたサレハ大統領の退陣と民主化を求め、カルマンさんは祖国イエメンの自由と平和を勝ちとる革命の先頭に立ちました。最初は一人でもみんなと一緒に行動すれば社会は変えられる。その信念のもと平和的革命は成功し、サレハは退陣しました。

ジャーナリストとして勇気ある行動を起こしながら、家庭では夫と3人のお子様を持つカルマンさん。「女性だからできないと思ったことはない、女性だから何でもできるのです」「日本では女性の指導者を必要としています」「強くあれ、そして最前線に立て」…と、輝く笑顔で私たちにたくさんの大切なメッセージを発信してくれました。

「くらしき男女共同参画フォーラム」（10月11日）

プログラムの第一分科会の「DVのないまちをめざしてー現場からの提言ー」をテーマにしたパネルディスカッションでは、深刻化し、年々増え続けているDV、子ども虐待をなくすために私たちに何ができるか、現場でサポートしている人たちと一緒に考えました。

（弁護士・清野幸代さん）

離婚相談のなかにDVが隠れている。去年は過去最多の相談件数だったが、実態はこれよりはるかに多いと思われる。DV防止法施行から13年。3回改正が行われたが、外から見えにくいDVの現実は大変厳しい。DV家庭で育った子どもへの手当てが重要。

（社会心理学・市場恵子さん）

高校、大学でデートDV啓発活動が進んでいる。「これくらいのこと・・・」「これが恋・・・」「私に悪いところがあるから・・・」など間違った恋の神話を多くの人が信じている。誰かに相談してNO!と言えることで加害者にも気づかせることができる。

ノルウェーのアニメ「パパ、ママをぶたないで！」を紹介。父の母への暴力を子どもは自分のせいだと考える。「あなたは我慢しなくていい、あなたは悪くない」とのメッセージを伝えている。海外では、DV加害者は逮捕され隔離される。被害者は今までの生活を送り続けられる。

（国際ソロプチミスト倉敷会長・中村若江さん）

DV防止、エイズ防止のメッセージ入りティッシュを配布したり、ホットラインカード立てを市に寄贈してトイレにおいてもらっている。デートDVのラジオドラマをアニメ化して上映している。誰かに相談した時に、それはDVだと気づける。

（倉敷児童相談所・薬師寺真さん）

児相への相談は3割が虐待。県内4か所の児相に毎年7000人の新しい子が来る。性的虐待はDVとの強い関係性があり、支援が急がれる。高校での講演後、明らかに生徒たちは変化し「助けて」という意志を持つ。生徒への教育、啓発は大切。

イベントでは、2015年の本会議への機運、男女共同参画社会への関心が高まってきていると感じました。DVのない、お互いを認め合う社会を築くのは自分。

（文責 新垣敦子）